

## 令和5年度第7回タウンミーティング質疑等の要約

令和6年12月26日（火）農村環境改善センターにて第7回タウンミーティングを開催しました。いただきました御質問・御要望等について、以下のとおり報告します。

なお、過去のタウンミーティングで寄せられた質疑等の要約については、お知らせかわみなみにて配布、町ホームページにて公開していますので、御確認ください。

タウンミーティングは、月1回を目途に、各地区を回りながら開催する予定です。日程・場所については、防災無線等にてお知らせします。多くの方の参加をお待ちしています。

### 1 議会及び動静報告並びに財政状況の報告に対する質疑

1	今回の財政状況報告の中で人件費はどこにあたるのか。
回答	前回までは性質別で仕分けした資料だったが、今回、新たに目的別で仕分けした資料を作成した。人件費は、それぞれの事業に含まれる。
2	目的外の積立金はあるのか。各年度予算残はどこに行くのか。 就任後、関係団体との意見交換の機会は。
回答	基金は、すべて条例で定められている。予算残は翌年度への繰越金となる。 総会等に全部で120数回出ている。

### 2 町政運営全般について(自治公民館制度について)

1	令和3年に分館制が復活したのは、自然に復活したのか、そのような指導があったのか。 自治公民館制度が上手くいっている自治体はどこかあるか。
回答	私（町長）が自治公民館長をしていたときに戻った。自治公民館長会議で話が出た。山本地区はうまくいって、一生懸命やったり、館長以下頑張っているが、そう感じておられない方もいる。皆さんになじんで、皆さんが使える、近所付き合い、災害時の助け合いができる組織づくりのために意見をいただきたい。全国的な好事例については未調査。
2	高齢であることを理由に、振興班を解散する、抜ける、分館を抜けるという動きがある。
3	今の状況では共助は難しいと感じる。自治公民館になってから、振興班同士の繋がりも振興班内の繋がりも希薄になったと感じている。高齢になったから振興班を抜ける人がいるが、以前のような繋がりを作っておけば、脱退者はそんなに出ないのでは。もっと住民が納得する方法を考えてほしい。区域が広がり過ぎると、なかなか共助は難しい。
4	自治公民館制度は、自治組織が崩壊してしまうということで、無理やり新しいやり方でスタートした印象がある。地区の人たちの繋がりを作っていくには、防災しかないのでは。誰一人取り残さない発想で組織化していくことを目指すしかないのではないか。
5	未だに“24区”割りが町民の中に根付いているし、公的な役職も24区割りで選出されている。分館も廃止の決議がないまま、廃止になっている。会費も集めていないため、自治公民館に自治意識はない。それなりの負担をしながら自分たちも頑張っているんだという

	意識が大事。川南町のなかで自分自身の役割がわかるためにも顔の見える活動が大事。20分館は、現在も会費を集めながら活動している。どのように再開するかは難しいが、プロジェクトチームを作って議論していく必要があるのでは。
--	---

### 3 質疑・要望等

1	(町長の動向の説明を受け) 対外的なことが多いが、職員との関わり方は。
回答	(説明内容は) 就任後に行ったことに絞ったため、そのような形になった。職員ともいろいろ話しながら進めている。町長は、町一番のセールスマンだと捉えている。町のことをPRしていくのが仕事だと思っている。あわせて、案内があったものにも出席しており、自主的なものではない。職員には就任以来ずっと、役場は住民のためにあるもので、現場に行き対面で町民と話をするように言っている。
2	町内の小中学校で多くの先生が、療休をとっている。そのサポートのため無理をしている先生方もいる。先生たちの労働環境が子ども達に影響をおよぼす。非常に厳しいのは分かるが、極力、先生方の状況も改善していただきたい。
回答	状況は認識している。県教育委員会にも実情を説明し、お願いしている。引き続き県と相談しながら対応していきたい。

※プライバシーに関わるもの等は、個別対応とさせていただきます掲載しておりません。